「顧みて下さる神と忍耐の末の恵み」創世記２１：１―7　　１５・６・２１

Ⅰこれまでの事。アブラハムは７５歳の時、神から、自分の故郷を出て、主の示す地へ向かうように命じられた。そうすれば、彼は大いなる国民となり、豊かに祝福されるとの約束を受けた。７５歳が、彼の本当の人生の始まりだった。彼は神に従い、行き先を知らされずに出発した。それから２５年の歳月が経った。大変な忍耐が必要だった。ここに至るまで、様々な苦悩を経験して来た。神の約束に生きるとはいえ、その意味はゆっくりと示されて来た。私達に対しても。それ故、一歩一歩主の御心を求める必要がある。先が見えない中での格闘があり、御心を求めるが故の悩みがある。自分なりの判断により、幾度か失敗の経験をして来た。私達も。彼は模範的な信仰者でも、成熟し完成した神の人ではない。完全な人はいない。皆、それぞれ弱さを抱えながら、しかし神の恩寵の中で豊かに取り扱われて行く。アブラハムも、見えない神への信仰を、あらゆる経験の中で学び続ける。そのようにして彼の、そして私達の信仰は成長して行く。　Ⅱ　忍耐の末の神の約束の実現。１．１節に、「主は、約束されたとおり、サラを顧みて、仰せられたとおりにサラになさった」とある。「約束されたとおり」「仰せられたとおり」と繰り返され、神が約束に対して誠実な方である事が強調されている。最初の約束の言葉から２５年が経っていた。アブラハムとサラは２５年もの間、この約束の成就を待たされていた。待たされている間、その徴候さえ見る事が許されなかった。何度か神はアブラハムに関わられ、約束を少しずつ示しておられた。しかし、それは約束の言葉であって、その約束が確実との手応えは得られなかった。神の約束の御言葉を信じる以外にはなかった。妻のサラも、神の約束はいつも夫に臨むだけで、３人の御使いが訪ねて来た時も、自分はご馳走の準備の為に表舞台から退けられていた。ヘブル１１章には「約束してくださった方を真実な方と考えた」：１１と記されている。サラも、私達と同じ不信仰という弱さがありながら、少しずつ成長して神を信頼する者に変えられて行ったことが分かる。２５年の歳月、子供を巡って彼女なりの強い葛藤、族長の妻への周りからの圧力と孤独もあった事だろう。いつも喜びに満ちた者ではなかった。私達にも皆、弱さ葛藤がある。しかし、神の時が来て、主は、サラを顧みて、約束を果たされた。２．：１の「サラを顧みて」の顧みるという動詞は、エジプトでの奴隷状態からイスラエルを神が解放され、救われる時に、「イスラエルを顧みる」と言う表現で用いられている。救いの恵みを与えられる神の特別のご配慮と共に、神がそこに臨まれる事を示す。神は、サラを、私達を顧みて下さる！神は、私達のこれまでの苦悩、戦い、葛藤、一切を知っていて下さる。ご存知でありながら、神の時が何事にもある。それまでは、やけにならず、神の御心を行いつつ忍耐する必要がある。しかし、ついに神の時が来て、神が顧みて下さる。サラも、私達にも。３.「顧みる」と言う動詞は、神が「訪れる」と言う意味も持っている。神はアブラハムを訪れ現れたが、今度は、神はサラを訪れられた。サラの傷を癒し、彼女が信仰をもって神の約束を思い巡らしてきたその葛藤の日々が報われる時が来た。喜びの訪れ。自分をアブラハムの妹と言わされた。身勝手な夫の行動。他の男性に召し抱えられるという危険も経験した。どこに神の恵みを認めたら良いのか。神の恩寵に生かされているという手応えをどこに覚えたら良いのか。その様な辛い中を通った後に神が神の時に訪れ顧みて下さった。私達の歩みも！

Ⅲ　神の約束の通りサラは身ごもった。神がアブラハムに言われたその時期に、年老いたアブラハムに男の子を生んだ。死んだも同然の体に命が宿った。枯れてしまって、もはや命の誕生の希望を持てない状況のサラに命が与えられた。主が命じられたようにイサクと命名した。：３。「笑」という意味。神への不信仰による笑いを悔い改め、不可能を可能とされる神を新たに信じる喜びの笑い。：４のイサクへの割礼は、イサクとその子孫が聖別された事を示す。イサクこそ、主の契約を受け継ぐしるしとしての割礼。「アブラハムは、その子イサクが生まれたときは百歳であった」：４。神の民としてのイスラエルの起源が、何よりも神の干渉によってのみ可能であったことの強調。私達全人類の救い主の誕生も同じ。乙女マリヤからの誕生。偉大な神の干渉によってのみ可能な誕生。マリヤは言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに…「聖霊があなたに臨み」…神にとって不可能なことは一つもありません」（ルカ１：３４－３７）。「神は私を笑われました。聞く者はみな、私に向かって笑うでしょう」：６。直訳：「神は私に対して笑いをつくられた」。「神は私を笑わせて下さった」と取るのが一般。かつての神の約束について行けない笑いとは対照的に、今は、神が笑わせて下さる。神のみがなして下さる偉大な御業の故に今は、喜びの笑い、感謝の笑いを経験させて下さる。人の不信にもかかわらず、恵みを惜しまれない神の受容的な大きな愛、サラへの好意と愛の表現。　　Ⅳ　励まし。年老いたアブラハムとサラに神の奇蹟的な御業でイサクが与えられた喜びは、願いがかなったから嬉しいと言うレベルにとどまらない。そこに神の御手を覚えての喜び、自分達に個人的に関わられる神の臨在を覚えての喜び。神の素晴らしいご計画に自分達が生かされている手応え、神の恵みの中を歩んでいるという自覚の喜び。百歳の夫と九十歳の妻に子供が生まれるという事実は、誰も疑いようのない神の訪れ、神の顧み。突然、神の恵みが湧いてきたのではなく、２５年前から少しずつ神の計画は、なされて来たという事。神の恩寵はいつも彼らの歩みの根底を流れていたという事。いつでも神の守りがある。神は私達に伴って下さる。初めから神の恵みのご計画の中に置かれている。神の御業のパートナーとして、この夫婦を、そして私達を導いておられる。主から目を離して、現実にだけ目を向けると、不信仰が増す。いつも主を見上げよう。洗礼は、ゴール、完成ではなく、スタート、初心者である。その後、試練もある。しかし、主がいつも共におられる事を忘れてはいけない。「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」マタイ２８：２０。自分の人生設計だけを見つめてしまい、神の恵みのご計画の中に自分が置かれている事を忘れてはいけない。神は私達を顧み、私達の心と人生に訪れて下さる！私達が、自分の悩みだけを見つめる事を止め、すべてを支配しておられる神に目を留め、神のなさる御業を思い起こす時に、私達は、喜びを見い出す。私たち一人一人が神の恵みのご計画の中に置かれている事を思い出そう。アブラハムとサラは、２５年、忍耐して約束のイサクが与えられた。私達も、祈り求めても与えられないとすぐに、あきらめないようにしたい。すぐに与えられると、そのありがたさが分からない。忍耐の末に与えられる時、主の深い恵みを覚え、喜びが増し、心から神に感謝できる。求めているものが御心にかなっているか尋ねつつ祈り忍耐したい。「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れる為に必要なのは忍耐です」ヘブル１０：３６